

教育研究業績書						
日付 2022年3月20日						
氏名 龍宮 信雄						
研究分野			研究内容のキーワード			
経済学			日本経済、世界経済及び経済政策の分析			
授業・教育向け業績						
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	PR該当	招待論文該当	概要
学術理論的研究業績						
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	PR該当	招待論文該当	概要
訪日外国人の地方における周遊ルートの変遷とその要因	共著	2019年6月	内閣府経済社会総合研究所 ESRI Research Note No. 47			本研究では、訪日外国人の地方への訪問の実態を捉えるため、「訪日外国人消費動向調査」の調査を用いて、2011～2017年の周遊ルートを描出を試み、2013年頃を境として、地方の周遊ルートが細分化されて、主な目的地として訪問される地域が増えたことが示唆された。さらに、地方の周遊ルートが細分化された要因を、「訪日外国人流動データ (FD-Data)」から検討した結果、周遊ルート内にある空港への外国からの直行便や、周遊ルート外の大都市からの流入が影響していることを確認した。 全体が共著であり担当部分は特になし。 著者：矢部直人、龍宮信雄、田中孝幸、渡辺真成
宿泊施設におけるIT導入とインバウンド宿泊需要の関連分析	共著	2019年6月	内閣府経済社会総合研究所 ESRI Research Note No. 46			本研究では、インバウンド観光受け入れに向けた宿泊施設のIT導入とインバウンド宿泊需要との関連を実証した。第一に、IT活用が生産性向上にどのように寄与するか、先事例調査や海外の先行研究を踏まえて概念モデルを提示した。第二に、宿泊施設のIT導入状況が外国人宿泊者数の成長率にどのように寄与したのか、観光庁の宿泊施設インバウンド対応支援事業と宿泊旅行統計調査の調査データを組み合わせて検証し、IT導入の指標であるWi-Fi設備の整備とサイトの多言語化が、旅館に対しては有意に外国人宿泊者数と関連性があることが明らかにになった一方、リゾートホテル等の他のタイプの宿泊施設においては、IT導入とインバウンド宿泊需要の成長との有意な関係は確認できなかった。 全体が共著であり担当部分は特になし。 著者：栗原剛、龍宮信雄、田中孝幸、渡辺真成
実務的業績						
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	PR該当	招待論文該当	概要
令和3年度年次経済財政報告	共著	2021年9月	内閣府			景気は緩やかな回復局面にあることを確認し、活発な消費意欲、好調な企業業績を消費、投資、輸出の拡大につなげることの重要性を指摘した。また、企業活動の課題として、2000年以降の国内投資・生産性・賃金の動きが弱いことを指摘し、ソフトウェア業界の生産性向上やデジタル投資・人材不足の解消などによるデジタル化の加速、温暖化対応、地域の立地促進等の必要性を指摘した。さらに、デジタル化に適した働き方や女性、高齢者の雇用促進策について指摘した。 全体の企画・編集・監修を担当。 著者：内閣府経済財政分析・総括担当 (30名程度)
地域の経済2020-2021～地方へのあらたな人の流れの創出に向けて	共著	2021年9月	内閣府 政策統括官 (経済財政分析担当) (退職前に龍宮が在職していた職の名で公表)			第1章では、人口の東京一極集中の動きや感染症後の変化について整理し、テレワークが進む中で若者を中心に地方移住への関心が高まっている等、働き方や暮らし方に対する意識の変化を分析した。また、本社機能の地方移転等企業の取組事例や、副業・兼業やワーケーションといった移住以外の地方とつながりも概観している。第2章では、感染拡大後の地域の景気動向を概観し、感染拡大の続く大都市圏で雇用等の回復が弱いことを指摘した。 全体の企画・編集・監修を担当。 著者：内閣府経済財政分析・地域担当 (12名程度)
世界経済の潮流 2021年1～ポストコロナに向けて	共著	2021年8月	内閣府 政策統括官 (経済財政分析担当) (退職前に龍宮が在職していた職の名で公表)			第1章では、主要国のコロナ禍での雇用・企業支援策とその効果を概観し、米国に比べて日欧では失業の発生が限定的だったこと、各国で例外的に抑制されたものの企業債務が増大したこと、各国で転倒閉業者が発生したことなどを指摘した。第2章では、世界主要企業を網羅したデータベースを用いて、ICT産業においては日本企業のR&D投資が見劣りすることを分析し、投資促進策の重要性を指摘した。 全体の企画・編集・監修を担当。 著者：内閣府経済財政分析・海外担当 (15名程度)
対談「5月の月例経済報告：日本経済の現状と課題」：政策メディア (動画配信)	対談	2021年6月	政策メディア (動画配信)			換金時点での景気の現状及び政策課題について概観し議論した。 対談：大和総研チーフエコノミスト 熊谷亮丸氏と龍宮の対談
OECD経済政策委員会		2021年5月	OECD			日本及び世界経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。
日本経済2020-2021～感染症の危機から立ち上がる日本経済	共著	2021年3月	内閣府 政策統括官 (経済財政分析担当) (退職前に龍宮が在職していた職の名で公表)			第1章では、2020年後半以降のマクロ経済を概観した。第2章では、雇用動向について、政策効果もあり失業率の上昇は抑制的だったが、成長分野への労働移動の促進や労働者のスキルアップが今後の課題であることを指摘した。第3章では、企業部門について、感染症下の政策支援による倒産件数の減少等を概観した上、中小企業の生産性向上のため無形資産投資 (ソフトウェアを含む) や事業承継の促進の重要性を指摘した。 全体の企画・編集・監修を担当。 著者：内閣府経済財政分析・総括担当 (30名程度)
世界経済の潮流 2020年1～新型コロナウイルス感染症下の世界経済	共著	2020年11月	内閣府 政策統括官 (経済財政分析担当) (退職前に龍宮が在職していた職の名で公表)			第1章では、感染症の拡大と感染抑制策を概観し、経済活動の再開に伴い先行き不透明感はあるものの世界経済は比較的早期に回復に向かっていくことを指摘した。第2章では、感染症下の財政・金融政策を (1) 経済活動抑制の影響を緩和する政策、 (2) 経済活動再開を後押しする政策、 (3) 危機後の経済社会の定着を促す政策に整理し、 (1) を計画的に縮小していく事例や、危機の下でもいくつかの国では待機を見据えて (3) の政策が着実に進められていることを指摘した。 全体の企画・編集・監修を担当。 著者：内閣府経済財政分析・海外担当 (15名程度)
OECD経済政策委員会		2020年11月	OECD			日本経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。
令和2年度年次経済財政報告～コロナ危機：日本経済変革のラストチャンス	共著	2020年11月	内閣府			マクロ経済動向について、感染者数増加が消費マインドに与えた影響が大きかったこと等を指摘した。また、テレワークの増加やバートの持過改善等が進む中、働き方改革の取組が、雇用や労働生産性に与える影響を定量的に評価した。保育の充実や育児休業等が就業にプラスの効果を持つことを確認し、女性の継続就業を促すために必要な働き方の見直し等を検討した。経済のデジタル化について概観し、我が国の弱点である公的部門のデジタル化の遅れやIT人材の不足を指摘した。 全体の企画・編集・監修を担当。 著者：内閣府経済財政分析・総括担当 (30名程度)
OECD経済政策委員会		2019年5月	OECD			日本経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。
OECD経済政策委員会		2018年11月	OECD			日本経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。
OECD経済政策委員会		2018年5月	OECD			日本経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。
講演「政府経済見通しについて」	単著	2018年2月	日本経済青年協議会			景気の現状と見通しについて講演
OECD経済政策委員会		2018年11月	OECD			日本経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。
OECD経済政策委員会		2018年5月	OECD			日本経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。
OECD経済政策委員会		2017年11月	OECD			日本経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。
OECD経済政策委員会		2017年5月	OECD			日本経済の現状、見通しとリスクについてプレゼン。また、副議長として全体の進行を管理。